

大規模酪農畑作経営の効率化に伴い飲食加工を展開し地域活性化に貢献 ～高倉 正志氏〔真狩村〕～

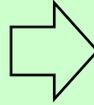
経営体の概要

事業実施前：平成17年

基幹作物：牧草、青刈りとうもろこし、
ばれいしょ、てんさい

経営面積：70.0ha

飼養頭数：乳牛（搾乳牛）160（100）頭



事業実施後：令和3年

基幹作物：牧草、青刈りとうもろこし、
ばれいしょ、大豆、てんさい

経営面積：85.0ha

飼養頭数：乳牛（搾乳牛）160（100）頭

取組の経緯と経営転換のポイント等

事業開始前は、条件不利な農地での牧草作付けと比較的条件の良い遠方ほ場での畑作物を作付けしていたが、本事業による大区画化やほ場条件の改善と自宅周辺に畑作物を集約し効率化を実現した。

農作業の効率化を契機に、食品加工等を行う運営会社を設立したのち、自らの牧場で採れた牛乳などを使った飲食店と加工施設を備えた施設「マーシーズファーム」を開業し、地域の活性化に貢献している。

営農改善のポイント

①6次産業化

「マーシーズファーム」を開業し、自らの牧場で採れた牛乳を使用したジェラート・バームクーヘン、真狩牛を使用したハンバーガーなど飲食の提供と洋菓子製造・販売、ネットショップを運営しFacebookやインスタグラムなどで情報発信している。



6次産業化（店舗開業）

②省力化

ほ場条件の改善やトラクターに自動操舵装置を導入したことにより、各作業時間が5割ほど軽減した。大豆収穫は、委託作業で対応することで労働力と機械経費の軽減を進めた。

牧草の収穫作業は、団地数の減に伴い、ほ場毎に作業機を装着したトラクターを配置し、遠方での作業の効率化が図られた。



乳製品の加工販売（ジェラート）

③作物の変化

自宅周辺の傾斜ほ場の整備と離農跡地の継承により経営規模を拡大したことで、畑作物の作付けを集積した。新規の大豆とばれいしょ、てんさいに青刈りとうもろこしの一部を輪作に組み込むことで畑作の4年輪作体系を確立した。



飼養する乳牛

事業概要

事業種：国営農地再編整備事業

関係市町：北海道虻田郡真狩村

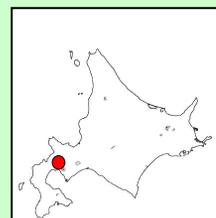
受益面積：1,028ha

事業期間：平成19年度～平成27年度

事業目的：区画整理・農地造成

主要工事：区画整理987ha、農地造成5ha、
道路4.8km

位置図（北海道）



真狩地区

<問い合わせ先>

北海道開発局 農業水産部

農業計画課 計画第1係

電話：011-709-2311

（内線5522）

（令和3年度調査時点）